

国語 第1学年 てがみを かこう

検討会の想定問答

指摘 1：ねらいが曖昧ではないか。手紙を書かせるだけで終わらないか。

返し：中心はB(1)エの「文章を読み返す習慣を付ける」ことと「間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること」、それに、(1)キ「丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使う」こと。本時は書いた手紙を読み返して直す時間で、手紙の内容の良し悪しではなく、読み返して直しているかを評価する。

指摘 2：評価規準は何か。どこで見るのか。

返し：3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第3時のノートと発言、思考・判断・表現①は第4時の下書き、②は第5時の下書きの赤の直しと観察、態度①は第1時の発言と第6時の振り返りで見る。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：B(2)イ「日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動」。身近な人に、うれしかったことや楽しかったことを手紙で知らせ、実際に渡す。

指摘 4：個に応じた指導はどうするのか。

返し：書くのが苦手な子には、メモの五つの欄を一つずつ言葉で話させてから書かせ、書き出しの型（相手の名前の後に「わたしは、」）を示す。平仮名の書き分けが難しい子には、「は・へ・を」の見本を机に置かせる。早く書けた子には、相手に聞いてみたいことを一文書き足させる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 5：ICTは使わないのか。

返し：1年生の手紙は手書きで書かせる。端末は、先生の手紙を大型画面に映して全員で読み返す時と、書いた手紙を写真に撮って直す前と後を見比べる時に使う。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ、拡大した紙で同じ活動ができる。

指摘 6：教科書の作例を使わないのはなぜか。

返し：作例は手紙の形を知るために読ませるが、本時の読み返しには、先生が学級の子どもも知っている相手に書いた手紙を使う。子どもの間違いやすい所を先生が選んで入れられるからである。単元の言語活動はB(2)イに沿っていれば、作例と違う相手や内容でかまわない。

指摘 7：6時間では書き終わらない子がいる。時間が足りない。

返し：6時間は光村図書出版の年間指導計画例の配当（書くこと6時間）に合わせた。削るなら、第3時の全員で同じ相手に書く練習を短くし、第4時とまとめる。清書は朝の時間などに回せる。学習指導要領 第3の1(5)は、第1学年及び第2学年のB書くことに年間100単位時間程度を配当し、「実際に文章を書く活動になるべく多くすること」としている。

指摘 8：発問が多すぎないか。

返し：本時の中心発問は「一文ずつ、指でなぞりながら読みましょう。おかしい所に赤えんぴつで印を付けましょう」の一つ。間違いを見付ける観点は見直しカードで示すので、観点ごとに発問は立てない。(1)キの丁寧な言葉は、第3の1(3)にあるとおり、書くことの指導を通して指導する。

指摘 9：板書はどう使うのか。

返し：先生の手紙を拡大して貼り、見付けた間違いを赤で直して見せる。中央の見直しカードは本時の後も教室に掲示し、書く学習のたびに使う。1年生の板書なので字数を少なくし、子どもに読ませる所は平仮名で分かち書きにする。

指摘 10：振り返りは何を書かせるのか。

返し：「なおしたところ」を見直しカードと同じ五つの絵から選んで○を付ける形にする。書ける子には「よみかえてよかったこと」一文で書かせる。読み返して直した経験を言葉にすることが、B(1)エの「読み返す習慣を付ける」ことの始まりになる。

指摘 11：生活科とどう関連させるのか。

返し：第3の1(7)は、低学年では他教科等との関連を積極的に図るとしている。生活科で関わった人（地域の人、学校の人、家の人）への手紙にすると、知らせたいことが子どもの体験から出てきやすい。ただし本単元の評価は国語の評価規準で行い、書き表し方と読み返しを見る。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第1学年及び第2学年〕2内容B書くこと(1)ア・ウ・エと(2)イ、〔知識及び技能〕(1)ウ・キ、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

